

利根町の経常収支比率の推移について

地方自治体の財政状況を判断するのに用いられる数値のひとつに「経常収支比率」があります。

これは毎年経常的に収入されるお金が、経常的な支出にどのくらい使われたのかを割合で示した数値です。この数値が低いと自由に使えるお金が多く、財政にゆとりがあることになります。一方、数値が高くなると使いみちが決まった支出が多く、財政状況は厳しく硬直化しているといえます。

利根町における近年の経常収支比率をみると、90%台前半で推移しています。

令和3年度は84.4%に改善されておりますが、これは新型コロナウイルスの影響で税収が落ち込むと予想されたことから、国において地方交付税の追加交付措置がなされた影響によるもので、全国的な現象として表れており、令和4年度は元の水準に戻っています。

前述のとおり近年においては90%台前半で推移しておりますが、10年以上遡ると90%台後半で推移していた時期が長くありました。これは、社会全体において不況の時代が長く続いたことにより、歳入において地方交付税が減少していたこと、歳出においては、人件費や過去に整備した建設事業費の返済費用である公債費の割合が高かったことや生産調整達成者補助金などの各種補助金の支出が多かったことによるものでした。

この状況を改善するため、町では行財政改革を全庁的に実施し、不要な歳出経費の削減に努めました。また、景気も回復に向かったことから地方交付税収入も増加し、財政状況が改善されたことから、現在の比率での推移となっております。

利根町の経常収支比率の推移

